

今日の力

クリスティン・アダムス
ニューメキシコ州 ホップス

12月6日(火)

誰かにとって取るに足りないものが誰かにとっては宝となる

聖書朗読 士師記 16:19～21

それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくとと思っています。 ピリピ 3:8

聖書には、価値を理解しない人々が宝物や機会を無駄にする物語がたくさんあります。息子としてのあり方を誤った放蕩息子、長子の権利を軽んじたエサウ、使徒の道を誤ったユダ、そして本日の聖書箇所にある力の源が髪にあるサムソン。私たちは、サムソンに対して「いったいお前は何を考えているのだ?」と言ってやりたくなります。

一方、聖書には、素晴らしき報いのために捧げられた献身の物語もたくさんあります。約束の地が示されたアブラハム、義母への愛に溢れたルツ、持てる僅かな銅貨を献金した未亡人、高価な香油をイエス様に注いだ女性、そして、本日の聖句にある立派な家柄と暮らしを持っていたパウロ。

これらの物語は私たちの上に与えられた導きなのです。単に非難や賞賛をするのではなく、しっかりと理解し、見習い、そして、私たち自身の歩みの上にも取りいれて、愚かな行いを避け、より賢明な選択をするための導きなのです。

パウロがキリストを知ることにより、持つに値する唯一の宝物を手に入れたように、私たちも、いと高きより善きものを探し求めましょう。

自らの力を増し加えることに等しき務めのために祈るのではなく、
務めを果たすための力を祈り求めなさい。

—— フィリップ・ブルックス

讃美歌 361

祈り 主なる神様。私たちの持っているものは全てあなたのものであることを覚えます。毎日、あなたから頂いている全てを、私たち自身を含めて、一切を残すことなく、あなたにお返しできますように、どうか賢き知恵を授けてください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ナンシー・バーカー

テキサス州 アラバマ

12月7日(水)

彼女はただできることをした

聖書朗読 ルツ記 1:10～22

それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。これが律法であり預言者です。 マタイ 7:12

インドの国民的な指導者であり、社会改革者であるマハトマ・ガンジーは、「自分が行動したことすべては取るに足りないことかもしれない。しかし、行動したというそのことがとても重要なのである」と言っています。本日の聖書箇所のナオミの物語もまさにその通りです。この物語は、ナオミが、飢饉のさなかに、異国のモアブの野に行くことを強いられ、結果、家族全員をその地に葬ることになったところから始まります。

夫と二人の息子を失ったナオミは、残された日々を、経済的な支援も励ましもなく、未亡人として生きねばなりませんでした。ナオミは、息子たちに先立たれた二人の嫁は、きっと故郷の母の家に帰りたいたいだろうと思い、彼女たちを義母である自分の世話から解放させることを決意しました。ナオミの将来は、この上なく見通しがつかなかったのです。

ナオミの決断によって、オルパはナオミとの別れを悲しみながらも、直ぐに、モアブの地で、再び家族を持つ機会を得ました。しかし、もう一人の嫁であるルツは、彼女の夫を生んだナオミの元を離れることを断固拒否しました。それは、ナオミが直面している問題を解決できるような、大きなことではありませんでした。しかし、それが、ルツができることの全てであったのです。二人の未亡人が寄り添ったところで、生活が劇的に良くなるということはありません。しかし、ルツが、自分ができることを選んだということがとても重要なのです。ルツがナオミを生涯助けることを決断したことゆえに、神様は、ルツに、御子イエス・キリストの祖先として歴史の系図に名を連ねる幸いを授けてくださったのです。ルツができたことは、すなわち、神様がお求めになられたことの全てであったのです。

聖歌 295

祈り 父なる神様、自らが欲するものを人に施せというあなたの御言葉は、私たちの行いは不十分でも、私たちが施したいというその行いを、あなたが祝福によって完全な善きものにしてくださることを覚えます。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

カイ・バーナム・エヴァンス

テキサス州 ラボック

12月8日(木)

サムエルは主の御声に聞き従った

聖書朗読 Iサムエル 3:1~10

するとサムエルは言った。「主は主の御声に聞き従うほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。」 Iサムエル 15:22

「そのころ、主のことはまれにしかなく、幻も示されなかった。」(Iサムエル3:1) まるで、現代のようです。祭司エリに仕えていた少年サムエルの時代は実際そのような状況だったのです。

霊的な渇きの時代に、神様はただの少年に過ぎないサムエルに語られたのです。他の男性たちはどこにいたのでしょうか？ 霊に満ちた父親たちはどこにいたのでしょうか？ なぜ神様は少年に語ることにしたのでしょうか？ 神様はサムエルが聞き従うであろうことをご存知でした。サムエルは、主が呼んでおられることを悟った時、「お話しください。しもべは聞いております」と答えたのです(Iサムエル3:10)。

神様に聞き従うことは、主なる神様への全き服従の第一歩となるのです。それは、聞く耳を持つことと同じく、自らを神様に明け渡すことを含みます。

私たちの多くは、自らを神様に明け渡すことは自らの犠牲を強いることになるだろうと非常に恐れます。しかし、主に聞き従うことは、今の世を生きる上で、最も偉大で素晴らしい大いなる第一歩なのです。

聞き、学び、生き、第一歩を踏み出さない。

霊的な成熟は知識によっては成しえません。

それは、私たちの前に明かされた神のご意志に従うことによって成されるのです。

———— レオナルド・レイブンヒル

聖歌 581

祈り 神様。どうか語りかけてください。私は、あなたにつき従う未来への第一歩を踏み出す準備ができています。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ビル・ヘネガー

カリフォルニア州 ウェストレイク・ビレッジ

12月9日(金)

馬鹿げたこと

聖書朗読 Iサムエル 17:32~37

「あなたは、あのペリシテ人のところへ行つて、あれと戦うことはできない。あなたはまだ若いし、あれは若い時から戦士だったのだから。」

Iサムエル 17:33

ダビデは羊飼いでした。それが彼の仕事だったのです。日々、彼は羊たちの番をし、羊たちを緑の牧草地や水のある場所へと導き、迷子になった羊を探し出し、崖から落ちた羊を救いだし、傷の手当てをしてやり、弱った羊を抱え運んでやりました。簡単な仕事ではありませんが、彼にとってはそれが当たり前のことであつたのです。彼は英雄ではありませんでした。巨大なペリシテ人に対し、ダビデは、神様にあって勝利を見出したのです。

ダビデの父が、ダビデに、前線にいる彼の兄弟たちの様子を見に行かせた時に、ダビデは、3メートル近くの身長 of 巨大なペリシテ人ゴリヤテが神様を嘲笑っているのを見ました。イスラエルの戦士たちは、その光景を目にするばかりで、意気消沈してしまい、神様の名誉を守ることができませんでした。ダビデは、ゴリヤテに挑むことを決意しました。しかし、イスラエルの王サウルは、「馬鹿げたことだ。勝ち目などないぞ。」と言いました。しかし、この平凡な少年は神様のことを知っており、馬鹿げたことかどうかは、問題ではないことを知っていました。彼は、ゴリヤテと対決することを強く望み、神様は、この平凡な向こう見ずの少年を使って、輝かしい勝利をイスラエルの上にもたらしたのです。ダビデは彼の仕事をしたにすぎなかったです。

クリスチャンは、善き行いの価値が、その回数や内容によるものではなく、あなたにそれらをさせた神様への愛にこそあるのだということ

を忘れてはならない。

———— 十字架のヨハネ (16世紀のスペインのカトリック司祭)

讃美歌 270

祈り 慈悲深き全能の神様、あなたにあって不可能なことは何ひとつありません。どうか私たちが信仰のうちに、この世にあって馬鹿げたことのように見えることを、あなたによって私たちに成させてくださいますように。偉大なる羊飼ひ、イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ダナ・メレネス

テキサス州 ヴィクトリア

12月10日(土)

平和の時にあって備えなさい

聖書朗読 I列王記 5:1~6

ところが、今、私の神、主は、周囲の者から守って、私に安息を与えてくださり、敵対する者もなく、わざわざいを起こす者ありません。今、私は、私の神、主の名のために宮を建てようと思っています。 I列王記 5:4~5

全てのクリスチャンは、誘惑に対する個人的な戦い、病気や障害に対する肉体的な戦い、そして、偽の教えに対する霊的な戦いといった争いや戦いを経験します。

ソロモン王は記しています。「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。」(伝道者の書3:1)。「愛するのに時があり、憎むにも時がある。戦うのに時があり、和睦するにも時がある。」(伝道者の書3:8)。

戦いを避ける者は、悪に完全に屈服することを余儀なくされます。戦わねばなりません。しかし、平和な時にあっては、私たちは取り乱すことなく築き上げ、備えることができます。平和な時にあって、私たちが自らの信仰を強くすることに勤めれば、戦いの時にあって、激しい攻撃に対して備えることができます。平和な時に「食べ、飲み、愉しめ」と言う代わりに、ソロモンが礼拝の備えのために神様の神殿を築いたように、私たちも自らの行いを高く上げ、勤めましょう。

平和な時にあって、セミナー、会合、祈祷、兄弟姉妹との交わりといった霊を高く上げる活動を積極的に行いなさい。祈りのうちに、神様の御言葉を聞く時間を多く持ちなさい。そうすれば、神様は、嵐が襲ってきた時に備えさせてくださいます。

*私たちが長い間、祈り求めていてもずっと与えられなかったことを、
神様は一瞬の間で与えてくださることがよくある。*

—— トマス・ア・ケンピス

聖歌 472

祈り 愛する神様、平和な時にあって、時間を無駄に使うことなく、私たち自身を戦いの時に備えさせてください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ウィリアム・E・マクトナフ
ミャンマー ヤンゴン

12月11日(日)

貧しい者に付け込んではいられない

聖書朗読 ネヘミヤ 5:1~13

自分の隣人をさげすむ人は罪人。貧しい者をあわれむ人は幸いだ。

箴言 14:21

南アフリカ政府が食糧供給を助成している地区にも関わらず、貧しい住民が、食糧支給のことで争っているニュースを最近耳にしました。裕福な人間が、大量の食糧支給品を安く買い上げて、高値で転売していることが、貧しい住民への食糧支給を妨げる要因になっているようです。

本日の聖書箇所であるネヘミヤ書の第5章には、貧しい隣人たちに付け込むユダヤ人の共同体の有力なメンバーたちが記されています。飢饉とエルサレムの再建の重荷によって、多くの住民に重い経済的な負担が課せられていました。しかし、最も厳しい重荷を背負わされた人々に対して、裕福な者たちは、高利で金を貸していたのです。それによって、借り手は、土地やぶどう畑を失ったのです。重い借金のために子どもたちを奴隷として売らねばならないこともありました。このようなやり方で貧しい者につけこむことは、モーセの法により厳しく戒められていたことです(申命記23:19~20)。

ネヘミヤは、貸し手に対して、公正を欠いて搾取したものを返すようにと、権威を用いて圧力をかけました。私たちのこの世界においても、私たちのめいめいができることを行い、正義をもたらすことができますように。

讃美歌 第二編 99

祈り 正義の神様、私たちの隣人に対する正しくない行いを覚えさせてください。どうかそのことを悔いさせてください。どうか私たちが、弱きを虐げる行いをやめさせることができますように、それぞれが出来ることを成さしめてください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ロバート・P・リー
コロラド州 オーロラ